

仙台の思い出
乗馬部の4年間
坂間晃(昭和43年卒)



昭和37年(1962)に入学した当時は、まだ「学生さん」という言葉が残っており、市民の大学生に対する寛容な気持ちを感じられた。

入学金が7千円で年間授業料は2万円であったと記憶している。林子平の墓のある龍雲院の北側の通りの2階建て4部屋の下宿の4畳半一間で卒業1年までの7年間を過ごした。

下宿代は3食付き(昼の弁当を作ってもらった)で月7千円でした。自転車通りで土橋通りを下り、角五郎丁を経て澁橋を渡り、川内の教養部に通った。陸軍第二師団の跡地を米軍が接収した名残があり、蒲鉾兵舎は教室に、十字架を取り外したチャペルは大講義室として使用されていた。

新入生歓迎行事での乗馬体験がきっかけで、学友会乗馬部に入学した。構内の川内郵便局の北側には炭ガラを敷き詰めた馬場があり、厩舎

の裏は廣瀬川沿いの崖であった。当時は5、6頭の馬を繋ぎ飼っていた。そのうちの数頭は文部省の所管で学馬と呼ばれていた。

「厩七分に乗り三分」という諺通り、乗馬よりも馬の世話が重要で、朝は厩舎の敷袋糞の交換と馬糞(ボロ)の処理、飼いつけがあり、騎乗練習後は蹄の手入れや馬体の洗浄とブラッシング等を経てから、講義に出席していた。午後の講義の後は夕方の騎乗練習と飼いつけがあった。

当番の部員(複数名)は夜の9時に馬体の検温(直腸温)を済ますと部屋の薄汚い煎餅布団で当直である。先輩から、馬の知識の他に、学問や人生について教える貴重な機会でもあった。翌朝はまた馬房掃除からの一日が始まる。

部室の東側にはハルキハウスと呼ばれる6畳ほどの広さの掘立小屋があった。昭和34年卒の渡辺春樹先生(故人・眼科)は、昔ここを住まいとされ馬場から医学部に通われていたという。ここを根城にしばしばコンパを行った。亀岡の阿部酒店には随分お世話になった。皆で角材や木づ端を担いで坂道を登り、青葉城址の土井晩翠の碑の前で、焚火をして酒盛りをしたこともあるが特にお咎めも無かった。ある夜は、先輩と一緒に馬に乗って仲の瀬橋を渡り、一番丁のアーケードの柱に馬を繋ぎ、屋台のおでんをつ

ついたこともある。ボロの始末をどうしたかは記憶にない。装蹄師の仕事場が宮沢橋の先の河原町にあり、八木山から向山を経由し蹄鉄の交換に通った。帰路は八木山の道を駆け足で通過したが、よく転倒しなかったものと思う。

同期で入学した仲間が工学部と理学部のため、皆に合せて乗馬部の卒業は昭和41年である。やがてスモールグループでの実習や国試の準備のため馬場に行く機会も次第に減っていった。

略歴

昭和36年 神奈川県立厚木高等学校卒業
昭和43年 東北大学医学部医学科卒業
非入局東北大学病院自主ローテーション研修
麻酔科・産婦人科・放射線科・心臓血管外科
長野県厚生連佐久総合病院内科

昭和51年 佐久総合病院付属小海分院長
昭和52年 佐久総合病院内科
昭和55年 坂間医院継承

※本年度会費を未納の方は年会費五千円を同封の振込み用紙により、ご納入をお願い致します。
同封した用紙の使用でATMからの振込料は無料。現金での振込料は手数料百十円となります。
(会計担当幹事)

東北大学良陵同窓会
関東連合会 東京支部

〒121-0831
東京都足立区舎人3-11-26
株式会社 同窓会事務局
TEL:0120-10-9899(内線172)
FAX:0120-10-9184

関東良陵だより

令和五年十一月発行
(第五十六号)

総会・懇親会を4年ぶりに開催

関東良陵同窓会会長

飯野正光(昭和51年卒)

去る7月15日に関東良陵同窓会総会を4年ぶりに丸の内外国人記者クラブ会議室において開催いたしました。私は、2021年の役員会で押田茂實前会長(昭和42年卒)を引き継いで会長のご指名をいただいたものの、総会でご承認いただく機会をコロナ禍のために逸しておりましたが、本総会においてお認めいただくことができました。会長としての所信についてはすでに関東良陵だより51号で詳しく述べさせていただいておりますので、繰り返しません。幅広い年代の同窓生が懇親を深めることができる同窓会をめざして微力を尽くしてまいりたいと思っております。ご協力とご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。岩瀬光事務局長(昭和59年卒)の平成4年度の事業・会計報告に続いて、副会長として深津玲子先生(昭和58年卒)を指名し、総会のご承認をいただきました。深津先生には、女性医師部会長を兼務していただきます。深津先生のご挨拶は第2面に掲載しておりますので、ご覧ください。締めくくりには前会長の押田先生のご挨拶で総会を終了しました。

総会に引き続き特別講演を2題拝聴しました。東大医学部こころの発達医学分野で活躍中の金生由紀子先生(昭和59年卒)には発達障害について、日本大学医学部名誉教授で足立病院院長の内山真先生(昭和55年卒)には睡眠についてご講演をいただきました。いづれも大変興味深い内容で、活発な質疑応答も行われました。ご講演の内容は誌面の都合で割愛させていただきますが、お二人の講演抄録は、前号の関東良陵だよりに掲載しておりますのでご覧ください。

総会・講演会に続いて宴会会場に移し、同窓会と女性医師部会の合同懇親会を開催しました。昭和37年卒から平成18年卒まで、年代幅44年にわたる同窓の皆様42名が参加されました。世代間の交流

を促すため、テーブル席次は全員くじ引きとしました。最年長の日暮眞先生の乾杯の音頭で開会し、外国人記者クラブのコース料理を堪能しました。食事が進んだところで、くじ引きの順番に沿って一人1分間のスピーチを参加者全員にお願いしました。もつと長いスピーチをお願いしたいところですが、1分でも単純計算で42分以上かかることになり、無理をお願いしました。それでも、参加者全員の皆様のお仕事や近況などを伺うことができる貴重な時間となりました。

食事とお酒と懇談を大いに楽しんだところで、集合写真撮影でお開きとなりましたが、その後も多くの皆様がしばらく会場で立ち話を続けるなど和やかな懇親の余韻を楽しむことができました。来年の総会も同じ会場で開催する予定です。多数の皆様のご参加をお待ちしております。



関東良陵同窓会副会長

女性医師部会長

深津玲子(昭和58年卒)



このたびは関東良陵同窓会副会長および女性医師部会長を拝命いたしました。1983年卒の深津玲子です。私でこのような大役が務まるでしょうか、と不安に思いましたが、飯野正光会長よりダイバーシティを指して役員に女性を入れたいとお話を頂き、また前女性医師部会長の飯野ゆき子先生よりご推薦いただいたと伺い、お受けいたしました。年ばかりとり、経験浅い若輩者ではございますが、よろしくご指導のほどお願いいたします。

リレーエッセー第5回

水泳教室

小椋真佐子(平成5年卒)



子供のころ、体育が苦手だった。中でも水泳は大の苦手、高校の臨海学校で遠泳があったとき、私が泳ぐのを見た先生に参加を禁じられたくらいである。

子供ができて、同じ思いはさせたくないといスイングスクールに通わせました。すると、思いのほか平気で泳ぐので拍子抜けしてしまつた。私も基本からちゃんと習えば泳げるようになるのではないかとつい期待してしまつたのが始まりだ。

近所の水泳教室に大人クラスがあるのを知って、軽い気持ちで申し込んだ。はじめはとも新鮮で、楽しかった。親切に教えてもらえ、できなかったことができるようになるのはうれしかった。初級クラスから始めて、中級になり、上級になり、そのうち、上級クラスで知り合った人から誘われてマスターズクラスに通うよ

わつて」として掲載していただきまし。また良陵同窓会誌第21号(2023)にも「高次脳機能障害をご存知ですか?」として寄稿させていただきました。現在も厚生労働科学研究の研究代表として、高次脳機能障害者支援について調査研究を続けております。

さて女性医師部会については、関東良陵同窓会の下部組織として発足させるべく1998年2月結成準備会が開催された、と当時の関東良陵だよりに掲載されています。見出しは「女医部会 華麗に7月スタート:準備会で熱烈討議 夢、膨らむ」とあり、参加者の熱い思いが伝わります。「一方で交友を通じ連帯を深める場と考え、他方では新たに集立つ女性会員に力を添える母体を志す」と記事にはあり、初代部会長小林啓子先生、2代部会長田中佐喜子先生、3代部会長飯野ゆき子先生がその思いを繋いでいらつしやいました。私もこの思いをつなげられるよう微力を尽くしたいと存じます。

日本の医師制度はこの70年間大きな変化を遂げてきました。特に女性医師の働き方に関する制度改革は重要なトピックです。1990年代に妊娠・出産・育児など女性のライフイベントに対する支援が開始、近年では育児のための休暇取得、復職後の職場復帰をサポートするプログ

ラムや制度の導入も進んでいます。個人的には私が1992年に第1子を出産した際、宮城病院に勤務していたのですが、東北厚生局管内での育児取得医師第1号ということ、わざわざ病院の総務課に「今後の前例になるので落ち度なくやるように」と連絡があったと聞きます。そして総務課の担当者が「先生、しっかり手続きしますから安心して休んでください」と電話をくれて大変うれしかったことを覚えています。この頃育休は1年間で、キャリアが続くというだけで無給でした。その後国立障害者リハビリテーションセンターでは、育休、勤務時間短縮等の制度を利用する女性専門職を管理職として応援しました。2019年に始まった「働き方改革」では、日本全体でワーク・ライフ・バランスの向上が求められ、私も複数の男性職員に育休、保育園送迎のための勤務時間短縮などを勧め、取得されました。女性医師の活躍を支援するにはまだまだ改善すべき点が多くありますが、これは女性に限らず医師全体の働き方、考え方の変化も必要かと思えます。関東良陵会が、今まさに様々なライフイベントに直面している先生方、男女を問わず、の情報共有の場にもなれば、と思います。

最後に、国立障害者リハビリテーションセンターを退官して自由な身に

うになった。しかし、中級クラスくらいから、なかなか思うように上達しなくなってくる。頑張ってもあまりタイムは上がらない。しかも練習はハードになってくる。なんだか泳ぐことが苦役みたいと感じられるようになってきた。

マスターズクラスにいると、周りは元水泳部など、速い人ばかりである。負けたくないと思うが、いろいろ気をつけても、思うように上達しない。ちよつとタイムがよくなり、喜んでいると、次回には元のタイム、下手をするともつと遅いタイムになったりする。そんなことが日常茶飯である。やってもやってもうまくならない感じがして、やっぱり運動神経悪いのかな、と暗い気持ちになっていた時、コーチの言葉で納得した。「3万円じゃポルシェは買えない」。つまり、速い人のタイムで泳ぎたかつたら、その人がやってるくらいの練習量が必要、ということ。私は大人になってから始めて、初めは週1回、今でも週2回泳ぐだけである。速い人の練習量には足元にも及ばないのだ。そんな当たり前のことを忘れて「なんでもうまくならんいんだろ」なんて思っていたのがおかしいくらいだ。それがわかつてすぐ楽になった。

でもそれで安泰というわけではない。先日、なかなかタイムが上がらないんですけど、やっぱりこのくらい

なったことから、これまで私が行ってきた高次脳機能障害、難病、発達障害の方に対する支援についての研究報告等を掲載したサイト「玲子の研究室」を開設しました。開設したばかりのサイトで出来なところが多々あります、ご意見を頂ければ幸いです。
<https://plaza.umin.ac.jp/kenkyurepository/>

長、学院長および東北大学医学部高次脳機能障害科担当臨床教授等を勤めた。

2022年4月より国立障害者リハビリテーションセンター顧問。

略歴

東北大学医学部を卒業後、同大神経内科入局。

宮城病院神経内科部長を経て、2006年より国立障害者リハビリテーションセンター勤務。同センター病院部長、研究所部長、高次脳機能障害情報・支援センター

泳を続けることで心と身体が生きていき、人と触れ合うこともでき、現実の厳しさも知り、ごくたまには上達のうれしさも味わえる。それが楽しい。

の練習量じゃ仕方ないですかね?とコーチに言ったら、苦しくても、速く泳ごうとするかどうかの違いです。確かに、頑張つてないわけではなく、体力温存しようという気持ちで常にあつて、なかなか思い切つて泳げてないかもしれない。自分は練習量が少ないから、と言いつついら

仕事の後、水泳に行くときは、すぐく面倒くさい。特に夜のクラス(8時から)に行くときは行きたくない気持ちに圧倒されそうになる。あー何でこんなことしてるんだっけ?と毎回思う。でも「まあ行くか」と行つて泳ぐと、終わるころには気持ちはずつぱりし、充実感もあり、身体はぽかぽかと軽くなり、来てよかったと思う。帰りの自転車は空でも飛べるかのような快い感覚である。また、その日はいつもより寝るのが遅くなり、睡眠時間は短くなるのに、翌日の体調は普段よりむしろ良い。不思議だがほぼ毎回そうである。この繰り返しでどうにか続いているのかなと思う。

うまくやりたいが、結果をすぐに求める気持ち強いと苦しい。すぐに結果が出なくても気にしないことも大切だとわかってきた。いやこの際、思うようにいかないこと自体も楽しんでしまいたい。多分一生続けても、すごい。タイムは出せないと思うが、水

略歴

1986年 鳥取県立倉吉東高等学校卒業
1993年 東北大学医学部卒業、東京厚生年金病院内科研修医
1995年 東京大学附属病院第二内科入局 東京通信病院、三楽病院、上野病院、米国ワシントン大学医学部分子微生物学教室、朝日生命成人病研究所附属病院、東京大学附属病院に勤務

2007年 東京大学大学院(医学系研究科内科学)修了
2008年 大宮シティクリニック
2010年 バリュエーHRビルクリニック
2013年 河北健診クリニック